

八王子市

地域医療体制支援拠点の活動実績

(第7波：令和4年7月25日～9月16日)

令和4年10月作成

はじめに

地域医療体制支援拠点(以下「拠点」という。)は、主に新型コロナウイルスに感染し、陽性になった自宅等療養者(施設療養者含む)の入院・受診調整を、医療従事者(災害医療コーディネーター及びロジスティックチーム)と連携して行うチームである。

自宅等療養者の状態から入院又は受診が必要と確認される場合、保健所(委託事業者:メディカルコンシェルジュ含む)や医療機関、高齢者施設等からの連絡を受け、その症状や経過から、医療専門職による再トリアージ(受け入れ医療機関の選定含む)を行いつつ、適切な医療に繋げる「コーディネート機能」の役割を果たす。

また、第7波における新たな機能として、地域医療のひっ迫を防ぐ「八王子市新型コロナ登録センター」を開設し運営を行ったほか、保健所内に執務室を設置し、感染症担当と更なる連携を行った。

【開設期間】

令和4年7月25日(月) ~ 令和4年9月16日(金)

【主な業務】

- ① 入院・受診調整、受診手段確保(民間救急車・陰圧車等)
- ② 入院・受診待機の自宅療養者経過観察
- ③ 関係者間のネットワーク構築(関係機関 Web 会議の運用)
- ④ 八王子市新型コロナ登録センターの運営
- ⑤ 施設クラスターの技術的支援(現地支援のみ)

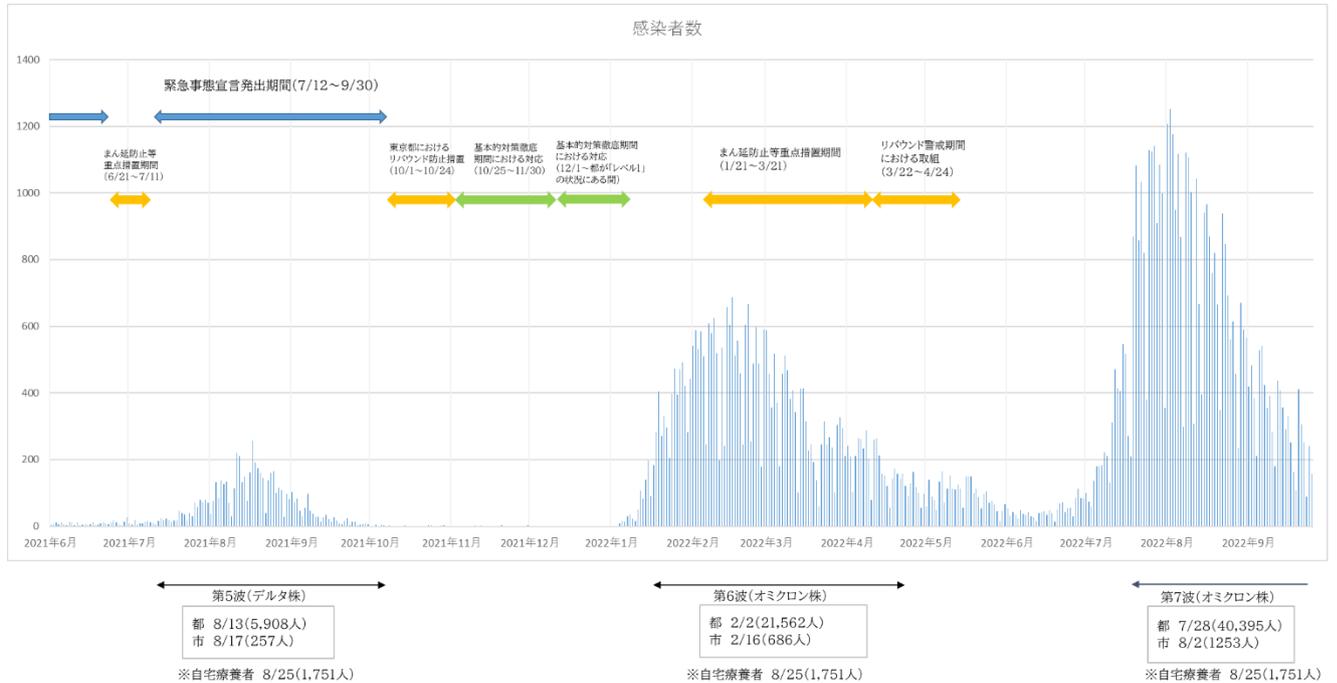
※ 第6波で行っていた高齢者施設・障害者施設入所者クラスター対応は主に保健対策課で実施

内容

1 第7波の特徴

1-1 感染状況

第6波と比較し、新規感染者が急激に増加し、長期間にわたり発生者の増加、高止まりが続いた。

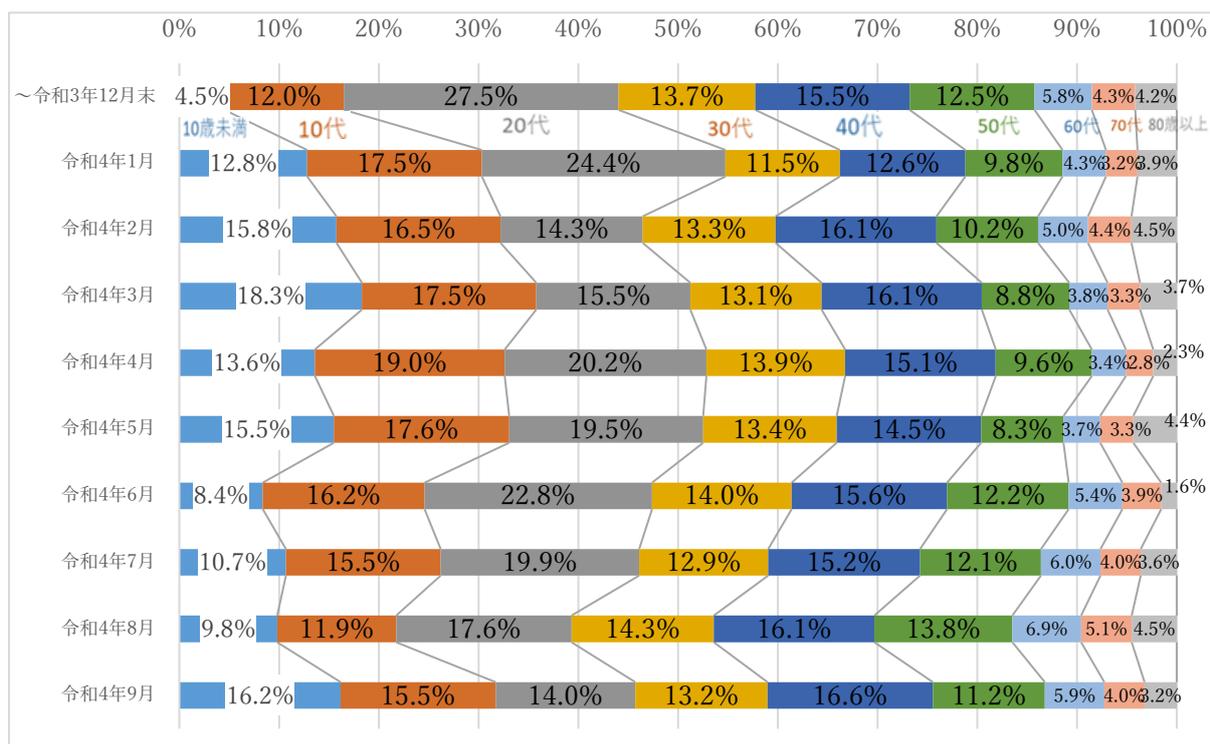


【参考】各波における感染者数と八王子市の入院率

市における入院率においては、6波と同様の低い割合となっている。

延べ感染者数	第1波 (4/5~5/25)	第2波 (7/15~9/25)	第3波 (11/25~2/15)	第4波 (4/5~5/25)	第5波 (7/10~9/20)	第6波 (1/1~4/30)	第7波 (7/25~9/16)
東京都 (人)	4,254	16,648	69,412	34,951	196,286	1,055,493	1,142,380
八王子市 (人)	40	335	1,717	1,108	5,487	34,664	37,275
八王子市 入院率	33人 84.3%	99人 29.5%	329人 19.2%	280人 25.3%	592人 10.8%	1,213人 3.5%	1,303人 3.5%

1-2 年齢別感染者の内訳

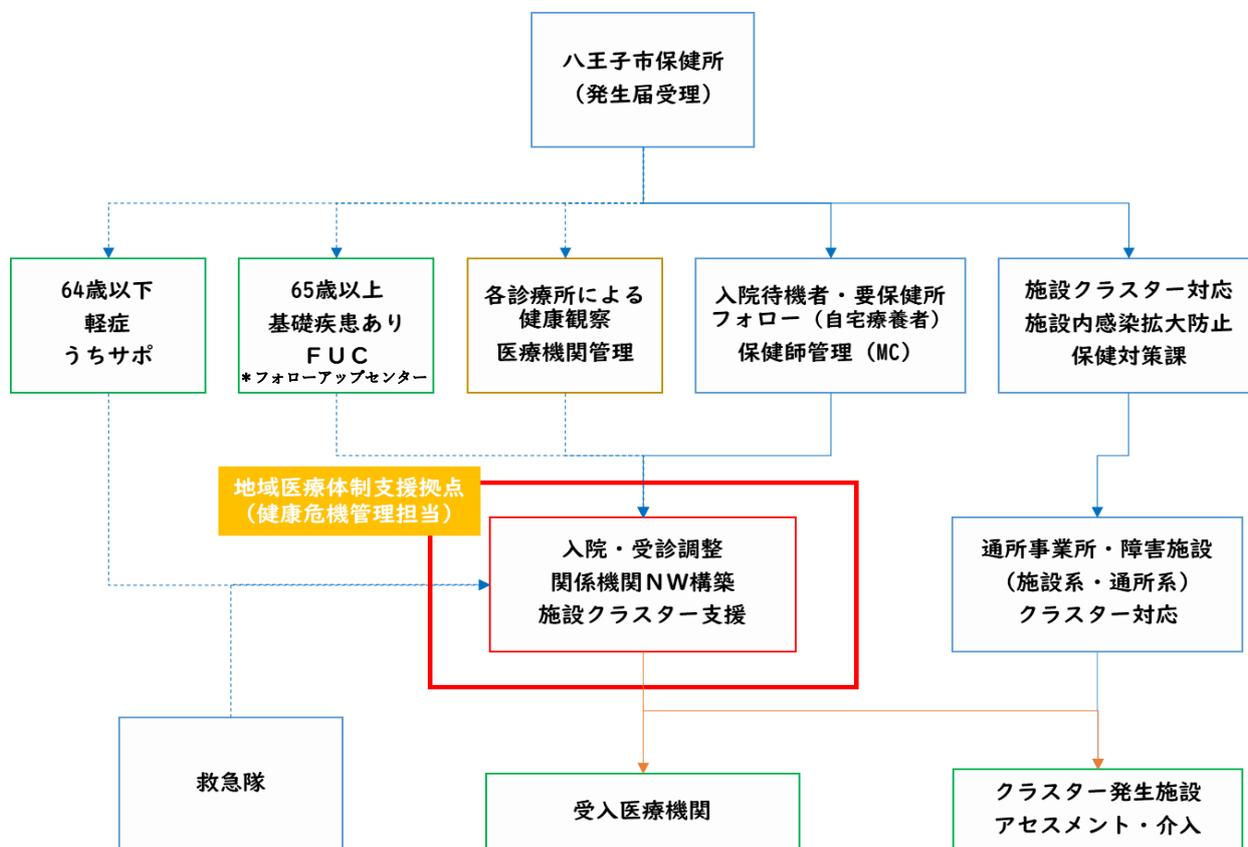


年齢別の感染状況を見ると、60歳未満の感染者が85～90%程度を占めていることがわかる。全体に占める割合は、20代が多くなっているが、拠点による入院・受診調整では高齢者が大半であることから、感染性は高いものの弱毒化していることもうかがえる。

2 第7波における拠点の位置づけ及び運用体制

2-1 位置づけ

健康医療部の機能として、本来保健所内で行う感染者の入院・受診調整の対応を行う。



【第6波からの体制の変化】

- 令和4年 4月 健康部に「健康危機管理担当課長」を配置
- 7月 地域医療体制支援拠点を保健所内に再設置(7月25日から)
- 8月 新保健所の開設(東京たま未来メッセ 庁舎・会議室棟 4階・5階)
健康医療部の新設(医療保険部と健康部を統合)



2-2 人員体制

医療関係者及び市職員等が同じ執務スペースに常駐し、連携して対応する。(最大 12 名/日)

(1) 八王子市災害医療コーディネーター 2名

- ・入院・受診の再トライアージ、医師との調整等

(2) 支援調整アドバイザー 1名(拠点ロジ)

- ・運営に関わる医療機関との連絡、調整、情報収集・整理等
- ・定例 Web 会議の運営、クラスター現地支援

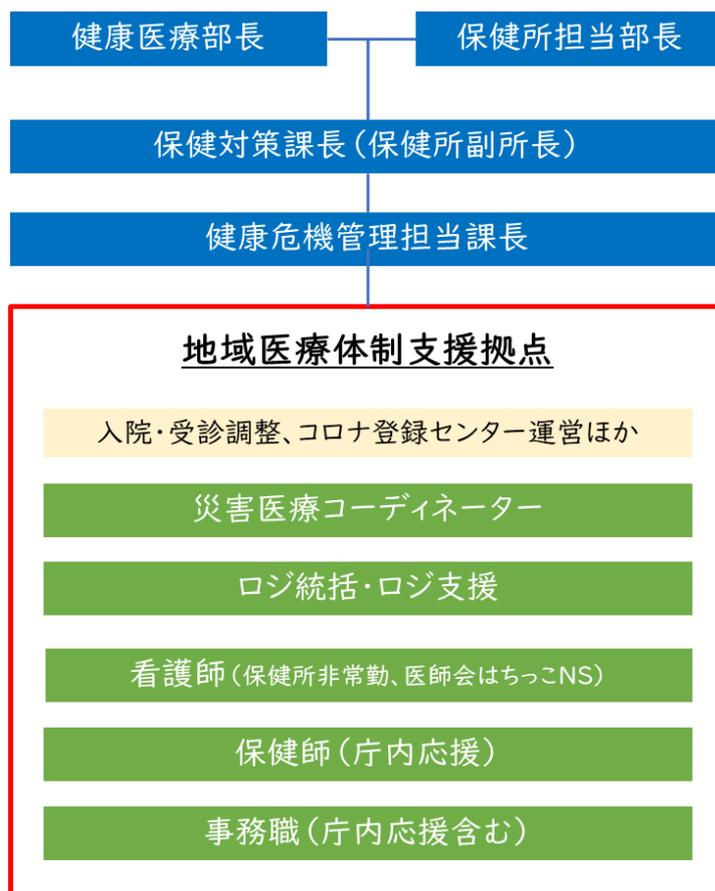
(3) 入院・受診調整等 10 名(保健師 1 名・看護師 1 名、事務職 8 名(うち応援職員 6 名)/日)

- ・入院・受診調整、民間救急車の手配、受診後の状況確認、保健所内での連絡調整等

※ 応援事務職員の体制：主査職1名(期間中固定)、主任・主事5名(1か月又は2週間で交代)

※ 拠点調整件数の減少とともに応援職員を減(6 名→4 名→3 名)

【拠点体制イメージ】



【その他】

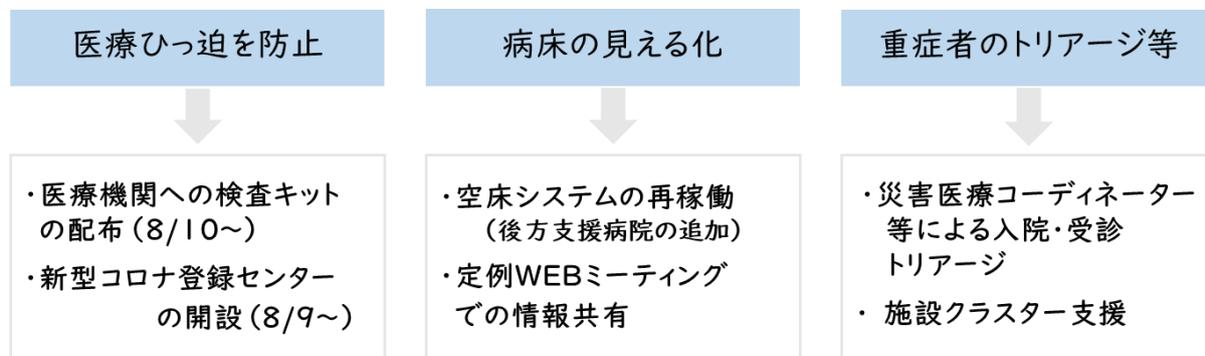
新型コロナ登録センターの運営 1～2名(事務職 1、非常勤1/日)+医師(保健所長・副所長)

- ・申請受付、要件確認・内容チェック、医師の診断、結果通知、登録処理(HER-SYS 入力)

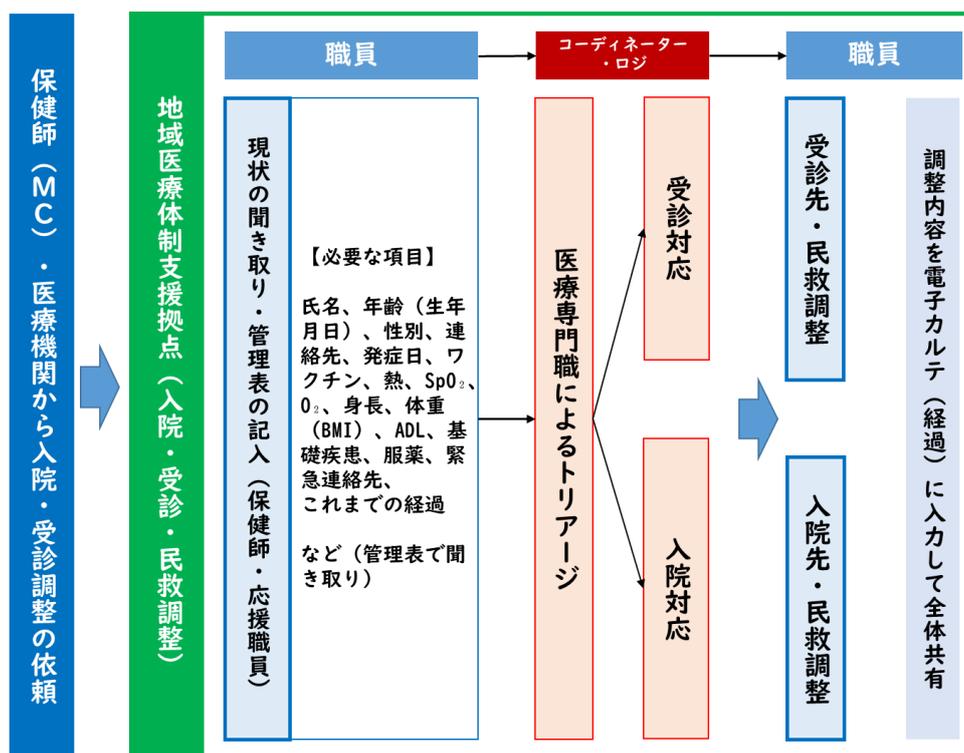
3 地域医療体制支援拠点業務

第7波では感染者が急増したことから、発熱外来のひっ迫が大きな課題となった。

そのため、拠点運営の新たな視点として、無症状、軽症の方に対する在宅での自己管理を支援するための新たな取り組みを開始し、安定した医療提供体制の維持を図った。



【入院・受診調整のイメージ】



第7波では、新たに後方支援病院(9箇所)の空床情報を掲載し、入院受入病院からの転院(10Daysルール)を円滑に行うことで、病床ひっ迫の防止に取り組んだ。

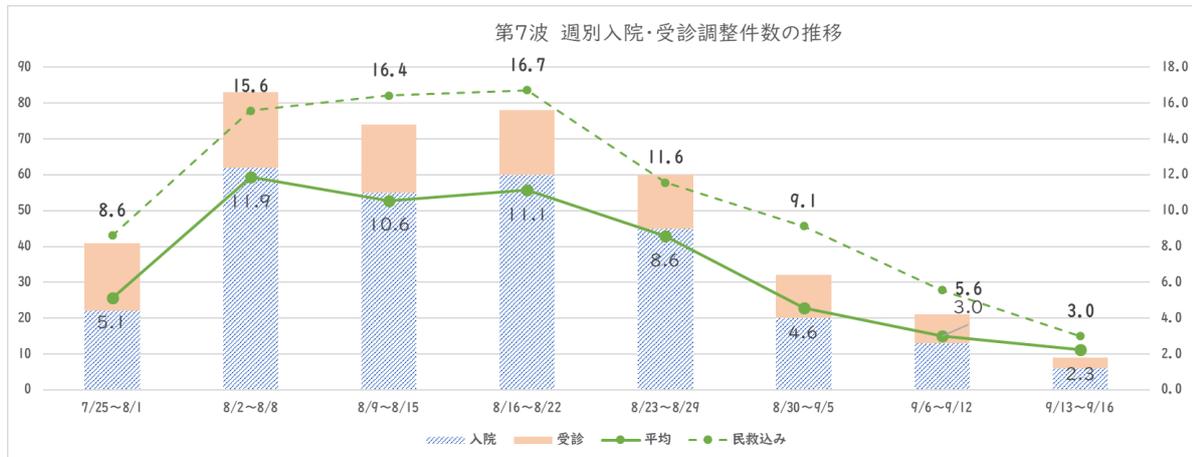
- ※ 毎日午前9時頃更新
- ※ 東海大学医学部附属八王子病院の協力により掲載病院を拡充

名称	最終更新	性別	空床数	備考
八王子医療センター	2021年08月27日09時07分	一般 男 1床	0床	
東海大八王子病院	2021年08月27日15時11分	一般 男 1床	0床	
南多摩病院	2021年08月26日13時04分	一般 男 0床	0床	
永生病院	2021年08月27日10時20分	一般 男 1床	0床	
聖隷会記念病院	2021年08月27日10時59分	一般 男 1床	0床	
石田病院	2021年08月27日10時15分	一般 男 0床	0床	

3-1 拠点の主な取り組み実績

(1)入院・受診調整

第7波の入院・受診調整件数の推移(7月25日から9月16日まで)



内訳	延件数	7/25~ 8/1	8/2~ 8/8	8/9~ 8/15	8/16~ 8/22	8/23~ 8/29	8/30~ 9/5	9/6~ 9/12	9/13~ 9/16
入院	283	22	62	55	60	45	20	13	6
受診	115	19	21	19	18	15	12	8	3
民救	205	28	26	41	39	21	29	18	3
計	603	69	109	115	117	81	61	39	12

(2)空床情報システム

入院受入病院及び後方支援病院の空床情報を共有するシステムを運用(随時更新)

- ・入院受入病院：8箇所
- ・後方支援病院：9箇所

(3)定例Web会議

毎週火曜・金曜日開催(13時から30分程度)

- ・各入院受入病院の状況(空床状況等)
- ・アフターコロナ病院の状況、発熱外来の状況
- ・状況や課題の共有 など ※延15回開催
- ・災害医療コーディネーター在籍時は司会を担う
- ※ 拠点閉鎖後も毎週1回運営



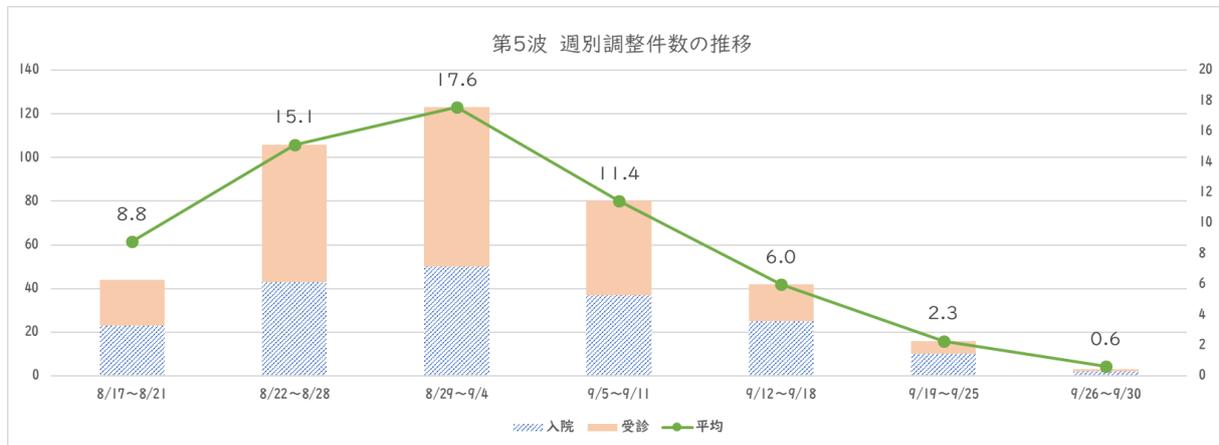
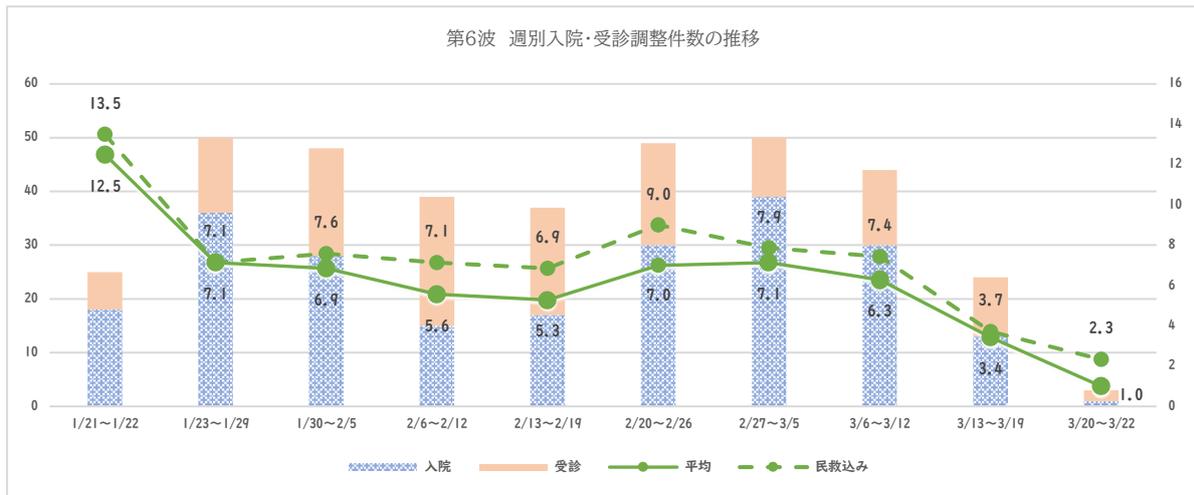
(4)クラスター現地支援

高齢者施設等でクラスターが発生した際、感染拡大防止を目的とした現地支援を行った。

- ・延支援件数：高齢者施設 3回(3施設)、障害者施設 3回(3施設)

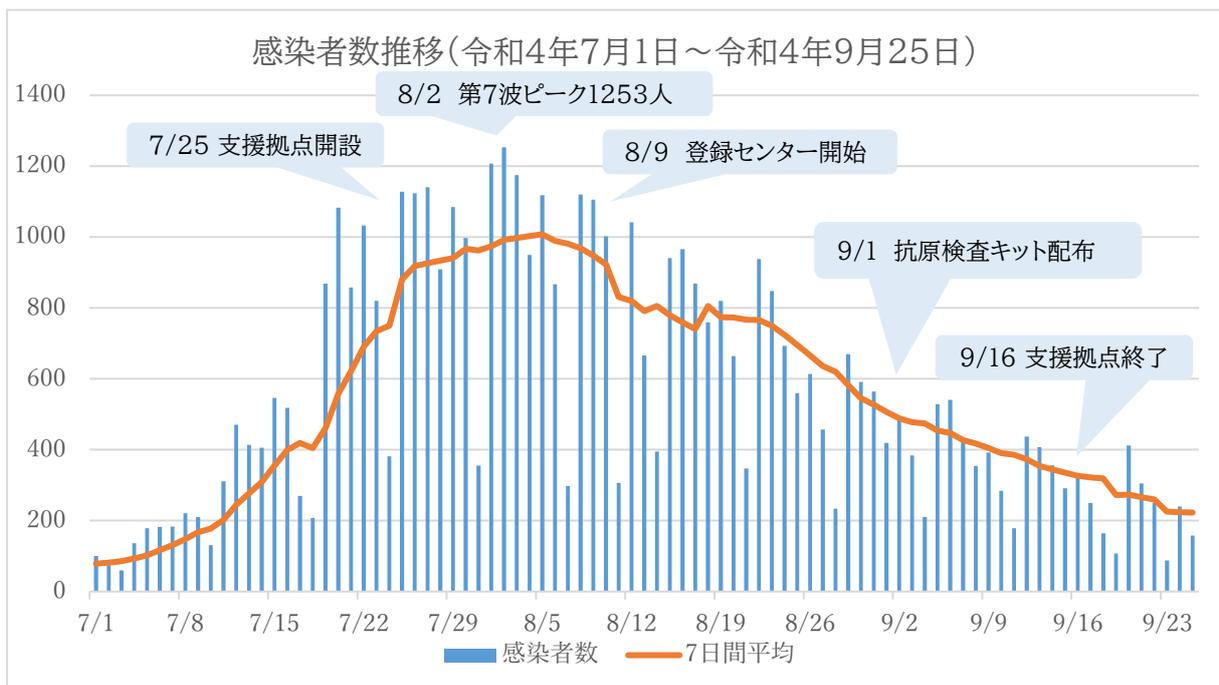
※ 拠点支援調整アドバイザーが保健対策課と情報共有を図りながらアウトリーチ

参考:第6波・第5波の入院・受診調整比較



※ 第5波では民救のみの調整はなし

第7波における対応状況(令和4年7月1日~9月25日)



3-2 新たな取り組み(地域医療体制を支える対応)

(1)八王子市新型コロナ登録センター

自主検査(抗原検査キット等)で陽性となった市民からオンライン登録申請を受け、HER-SYSに登録する「新型コロナ登録センター」の運用を開始。立ち上げには医師会の協力を頂いた。

【実施概要】

ア. 実施期間及び受付時間

・令和4年8月2日(火)から試行実施

※フォームは9日より運用

受付時間: 9時から17時まで

イ. 対象者(以下のすべてに該当する市内在住の市民)

・64歳以下で都の対象者(20~40歳代)を除く

・検査キットや、検査センターで陽性となった方

・基礎疾患有、妊婦、BMI30以上の方は除く

・発症から7日目以内の方

ウ. 申請受付上限

1日あたり150人(状況により拡大)

エ. 申請方法

Webフォームからの申請(PC、スマホで利用可)

八王子市新型コロナ登録センターのご案内

市では、新型コロナウイルス感染症の感染急拡大に伴う診療・検査医療機関での受診の集中を緩和し、迅速な陽性判定ができるよう、重症化リスクの低い方を対象に、「八王子市新型コロナ登録センター」を開設しました。

概要

自主的な検査で陽性と判明した方からオンラインで登録申請をいただくものです。申請内容を保健所医師等が確認し、HER-SYS(情報把握・管理支援システム)に発症届として登録します。(登録された方には保健所からショートメールを送付)
※薬の処方を含めた医療の提供は行いません。
受付時間: 午前9時から午後5時まで(土日祝日を含む)
※発症から7日目以内の方が申請できます。
※1日150件程度を上限として受け付けます。(順次拡大予定)

対象

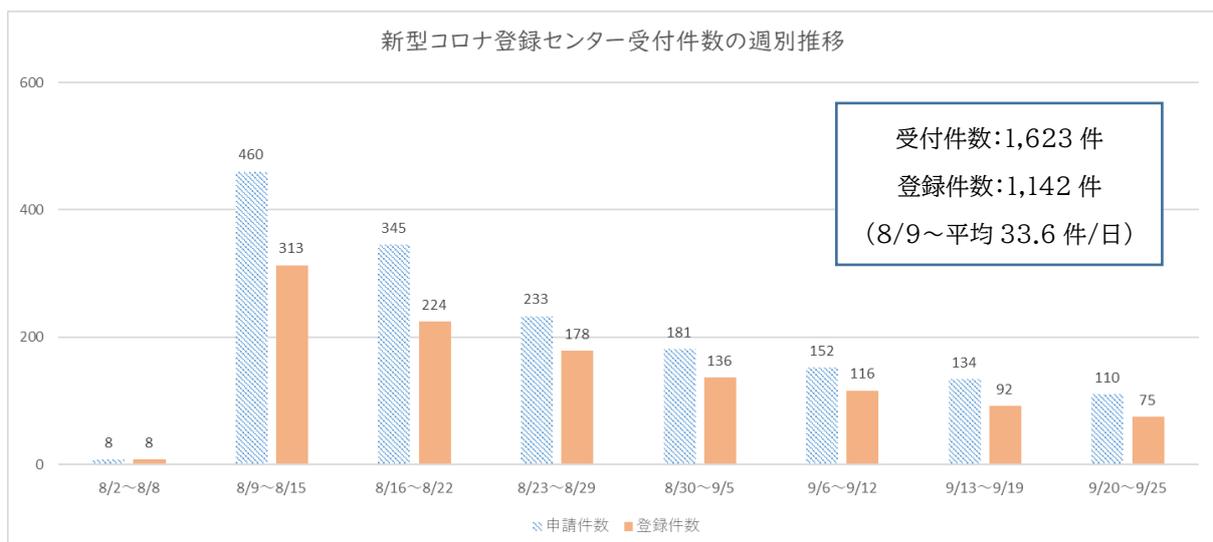
以下の全ての要件を満たす方を対象とします。(都陽性者登録センターに準じる。)

- (1) 八王子市内在住
- (2) 申請時点で64歳以下の方
※「東京都陽性者登録センター」の対象者は除きます。
- (3) 基礎疾患及び肥満(BMI30以上)がない方
- (4) 妊娠していない方
- (5) 申請時、無症状又は軽症である方
(症状はあるが軽く、医療機関の受診は不要と自身で判断できる)
- (6) 市販薬を活用して自宅療養が可能である方
- (7) 結果連絡や問合せ等について、メールでの連絡が可能な方
- (8) 自ら実施した医療用抗原検査キット(研究用は対象外)による検査の結果又は「東京都PCR等検査無料化事業の登録を受けた機関での検査結果が陽性であった方

入力内容に誤りや虚偽があった場合、申請は受理されませんのでご注意ください(市では責任を負いかねます)

【設置場所】八王子市保健所 地域医療体制支援拠点(健康医療部 保健対策課)
メール: covid-19_shienkyoten@city.hachioji.tokyo.jp

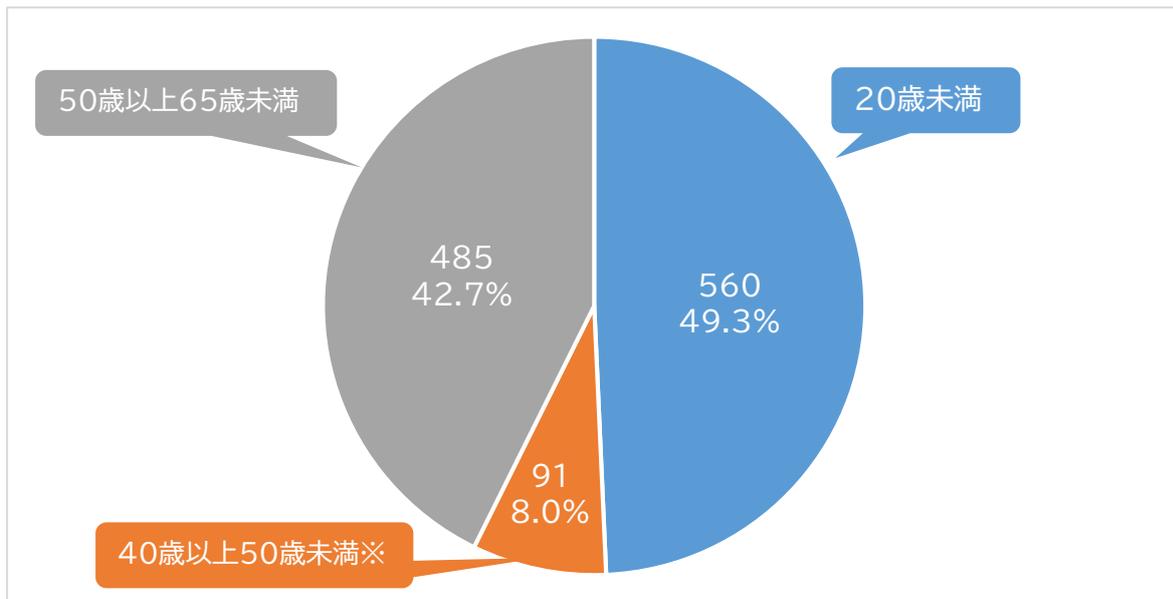
【日別申請・登録件数】



※ 8/2~8/8 メールでの受付、8/9~Webフォームでの受付

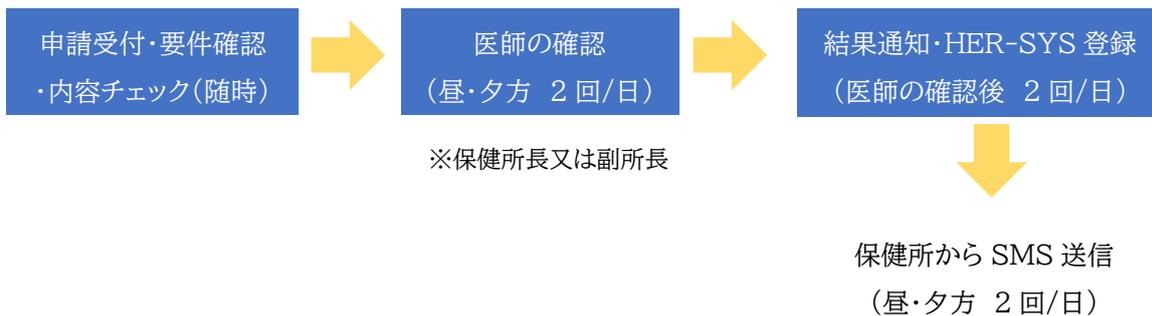
※ 受付件数と登録件数の差は要件や添付書類不備によるもの

【年齢別登録件数】 8月9日～(Webフォームでの受付)



※東京都陽性者登録センターの対象を除く(8月13日から40歳以上50歳未満が都の対象として拡充)

【受付から登録までの流れ】



なお、本 Web 申請には市の電子申請システム「Graffer(グラファー)」を活用した。

（試行）八王子市新型コロナ登録センターオンライン申請（テスト）

入力の状況 0%

八王子市の「（試行）八王子市新型コロナ登録センターオンライン申請（テスト）」のネット申請ページです。

（試行）八王子市新型コロナ登録センターオンライン申請（テスト）とは自宅等での自主検査で陽性が判明した方（基礎疾患なし、軽症程度）の陽性届をオンラインで受け付けします

ログインして申請に進む

ログインしていただく、申請の一時保存ができるようになります。

OR

メールを確認して申請に進む

申請に利用するメールアドレスを入力してください **必須**

example@example.com

確認メールを送信

入力の状況 75%

問診票

姓（漢字） **必須**

八王子

名（漢字） **必須**

太郎

セイ（カナ） **必須**

ハチオウジ

メイ（カナ） **必須**

タロウ

生年月日 **必須**

1975 年 8 月 8 日

年齢 **必須**

※令和4年8月1日時点で20～29歳の内に東京都陽性者登録センターの対象となります。

(2) 関連業務

①医療機関への抗原定性検査キットの配布

抗原定性検査キットが不足し、調達も困難な状況であることから、市が抗原定性検査キットを一括購入して無償配布した。

ア.配布数

17,200 回分(1 箱 25 回分×688 箱)

イ.配布対象医療機関数

約 150 医療機関(発熱患者の診療を行う医療機関)

②市民への抗原定性検査キットの配布

東京都から提供された抗原定性検査キットを活用し、重症化リスクが低いと考えられる有症状者に、受診前自己検査用として抗原定性検査キットを配布。

ア.対象者(以下の全てにあてはまる方)

(1)市内在住の方

(2)有症状者(のどの痛み、発熱、咳、倦怠感などの症状がある方)

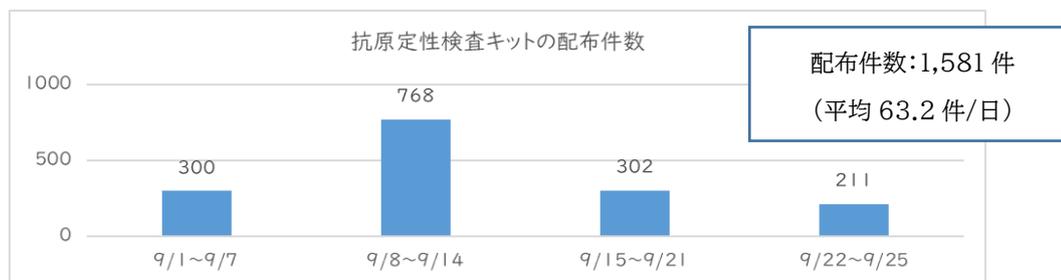
(3)20 歳未満・50 歳から 64 歳以下の方(東京都の配布対象外となる方)

イ.配布方法

総合コールセンター又はメールにより申込を受付け、郵送により配布する。

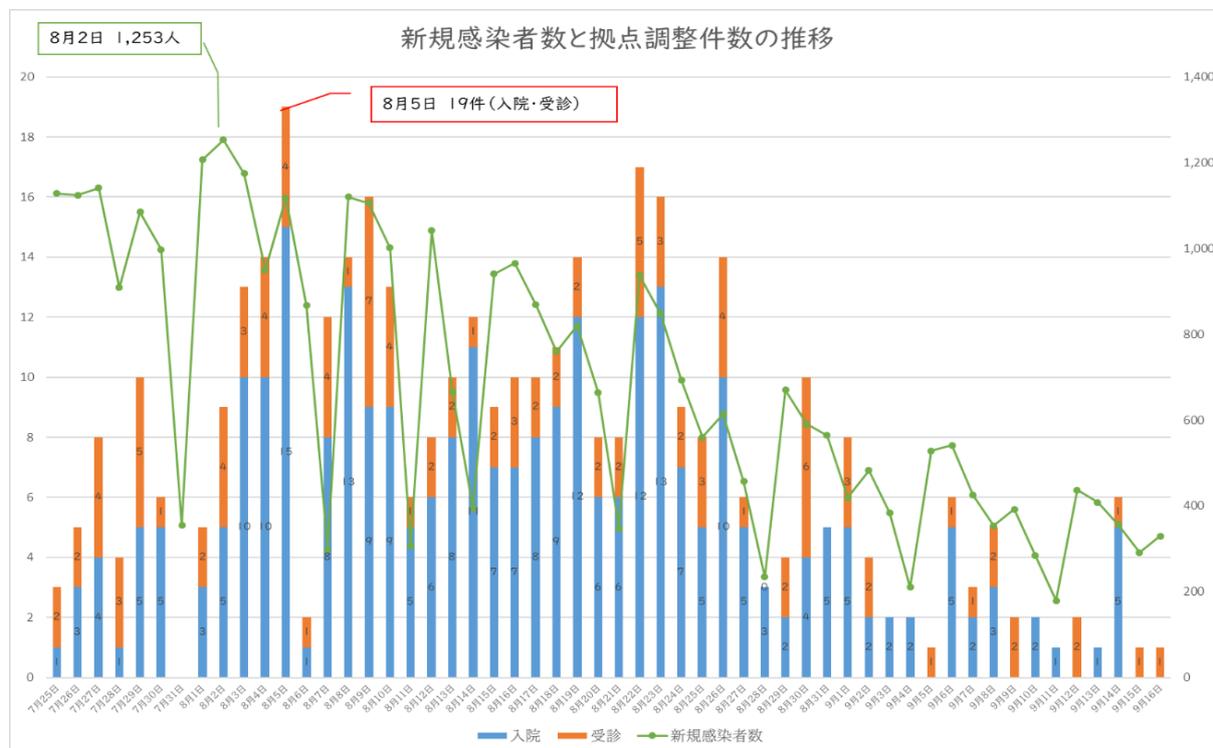
ウ.配布時期

令和4年9月1日(木)から 9 月 25 日(日)まで



4 拠点運営からみる第7波の傾向

(1)各週ごとの推移(調整件数と内容の内訳) ※新規感染者数との関係

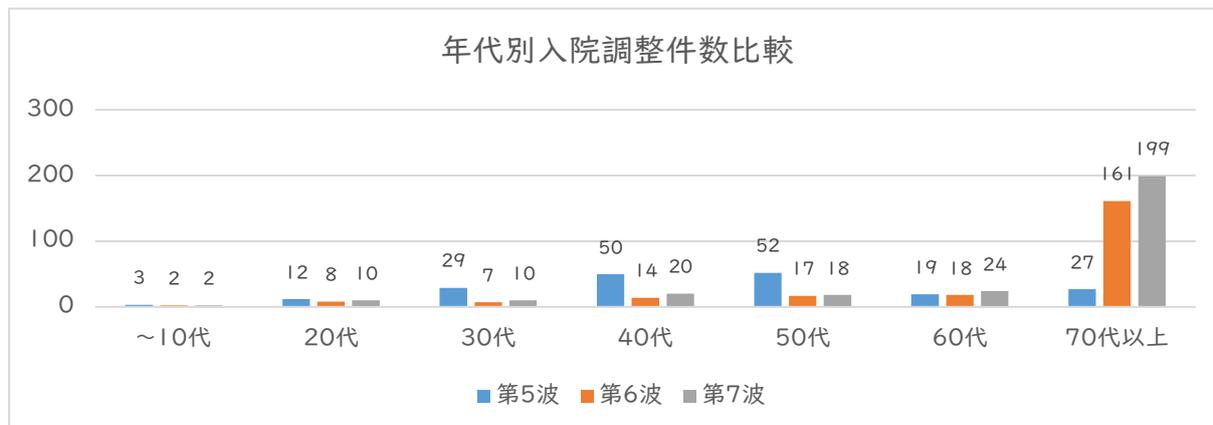


調整件数について、8月5日をピークに拠点立ち上げから3週間ほど10件を超えていたが、一時的に減少した。8月4週目に再度上昇が見られたものの、5週目から大きく減少したことがわかる。

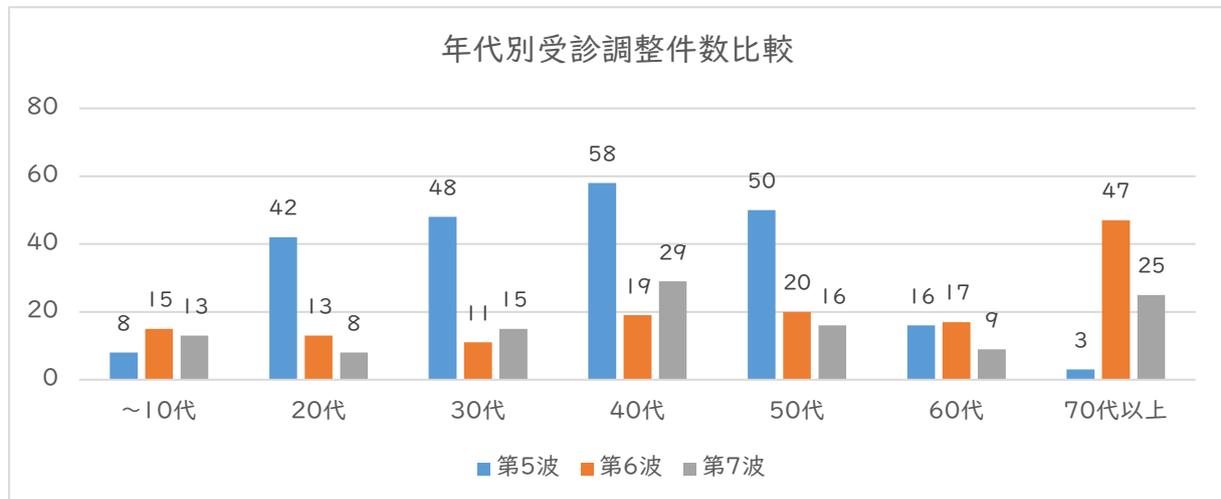
また、第6波と同じく、高齢者(主に施設入所者)の調整依頼が多いことから、全体的に入院調整件数の割合が高くなっている。

(2)年齢別入院・受診調整比較(各波との比較)

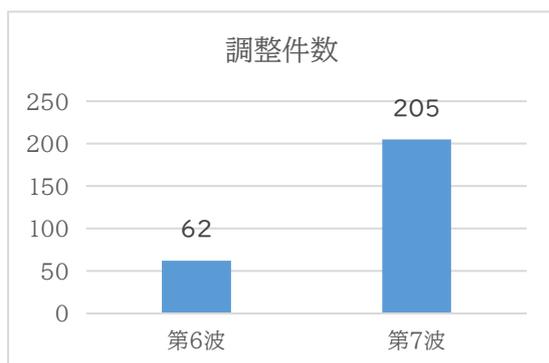
第6波と同様、70歳以上の高齢者にかかる入院調整が大半を占めており、新型コロナウイルス感染症をきっかけとした基礎疾患の重症化による入院調整が多いものと考えられる。妊婦や透析患者、障害者の入院は都の入院調整本部と連携を図った。



一方で、受診調整は各波と比較しても件数が少なく、自宅療養期間中に引き続き受診を受け入れてくれる診断医療機関が増えたこと、東京都の各種取り組み(うちさぽ東京、フォローアップセンター)による健康観察、医療機関への繋がりが機能していたことが分かる。



(3)民間救急の手配



第7波は、第6波と比較して転院及び退院による利用が多く、一時民間救急の手配がつかないことによる入院・受診時間の遅れ(予定していた時間に到着できない)という事態も発生した。

医療機関が直接転院(入院)調整を行うことが増え、民間救急のみ手配してほしいというニーズが多かったのも特徴。(現在は8社の民間救急の会社と協定締結している。)

(4)医療機関から頂いた意見

- ①高齢者の入院により、市内の感染者受入病院において基礎疾患の悪化により転院できない状態となる患者が増え、ベッドコントロールが難しかった。
- ②八王子市の感染が拡大する前に区部等からの患者の入院が増え、他の自治体の患者の場合、その自治体に戻す調整に苦慮した。
- ③施設から直接入院依頼があり、市の拠点を通さない入院も多かった。
- ④受診を受けた際に、処方薬が適量でなく症状が改善しない患者がいた。
- ⑤市独自の新型コロナ登録センターの設置や、抗原検査キットの配布は医療ひっ迫を軽減し、効果的であった。特に小児は軽症患者が多く、登録センターの利用を促すことで小児科外来の負担が軽減した。

5 まとめ(課題と今後に向けた検討)

(1)立ち上げと終了のタイミング

新規感染者の急増から、適切な医療提供体制を維持する(拠点でのトリアージによる市内入院医療機関のベッドコントロール、診療所等の発熱外来のひっ迫等)ため、関係機関との定例会議を通じて地域医療体制支援拠点の再設置のタイミングを判断した。

再設置にあたっては、4月から健康危機管理担当が配置されていたことで事前準備ができ、設置基準を管理職で共有していたことで、スムーズな設置が可能であった。

その後、感染者数の減少とともに、入院・受診とも安定した医療提供が可能となったことから、関係機関と合意形成を図りながら拠点を閉鎖することができた。

(2)保健所での拠点運営(第6波からの変更)

第6波までは本庁舎での拠点運営であったが、第7波では保健所で実施した。

拠点が保健所内にあることで、感染症担当との連携(情報共有やクラスター発生施設へのアウトリーチ支援等)が円滑になり、自宅(施設)療養者に対する迅速な対応が可能となった。

(3)施設クラスター対応

保健対策課感染症担当が、保健師応援体制の強化などで、本来業務であるクラスター対応により注力できる体制となり、必要に応じ支援拠点の支援調整アドバイザーが保健師と一緒に現地介入を行った。

また、所管課である高齢者いきいき課とも、東京都即応支援チームについて情報連携する等、第6波から引き続いてスムーズに連携できた。今回業務整理を行ったことにより、それぞれ効率よく対応することができた。

(把握・初動…保健対策課 →(医療の提供が必要)→ 拠点による入院・受診調整、アウトリーチ)

(4)職員の応援体制

第7波の特徴として、急激に感染者数が増加し、医療(特に発熱外来)のひっ迫が生じた。そのため、入院調整件数も急増したため、予定されていた拠点応援職員の増員を図ってもらったが、収束も急激だったため、応援職員を計画的に所属職場への復帰を図る調整が必要となった。

拠点応援職員を依頼するにあたっては、市民に行動制限のない中で、各所管では通常業務を継続しながら応援職員を調整することとなり、長期の応援体制を組む事は難しかった。そのため、入れ替わり時に職員同士の引継ぎを徹底したことで、業務レベルが低下せずに運営することができた。これまでの実績を踏まえ、適正な人数体制(急激な業務の増減に対応できる保健所内での体制や応援体制の仕組み)や期間、必要となる職層の検討が必要である。

6 おわりに

オミクロン変異株の流行により第7波は、感染爆発と行っても過言ではない状況となり、市職員、関係機関の従事者自身も多数感染した。そのため、どの機関も従事者不足の中でのコロナ対応となった。今回は7波の特徴に合わせ、関係機関と連携し新型コロナ登録センター事業を新規に取り組み、迅速に課題解決を図ることができた。第8波はインフルエンザとの同時流行により、第7波を超える発熱患者が急増することが予測されている。医療体制の維持のためには、関係機関と情報共有を継続しながら、備えの強化を図っていく必要がある。

令和4年（2022年）10月作成

健康医療部 健康危機管理担当（地域医療体制支援拠点）